

目次

はじめに	2
個別製図学習カリキュラム作成	2
状況分析	2
基本的カリキュラム	3
一般的自己分析方法 (c. d. の人)	4
作図トレーニング	4
エスキストレーニング	4
記述トレーニング	4
b. の人のカリキュラム	5
a. の人のカリキュラム	5
受験者の置かれた状況と合格率	6
一級とろぞ！.Net の活用方法	7
再現図添削の意味	7
通常添削	7
コーチングコース	8
掲示板サポートコース	8
教材等	8

はじめに

今年はじめて一級建築士受験をする方や、製図試験で不合格となり学科から受け直す方にとって、冬から夏にかけての時期は学科試験のための学習を優先することは当然です。しかし、例年7月下旬の学科試験後、2.5ヶ月間の製図学習期間で「なかなか練習課題を時間内で描きあげられるようにならない。」という方が多いのも現実です。

そこで、仕事と学科学習を両立させながら、この時期、最小限の時間でできる製図学習カリキュラムの作成方法を紹介します。

個別製図学習カリキュラム作成

状況分析

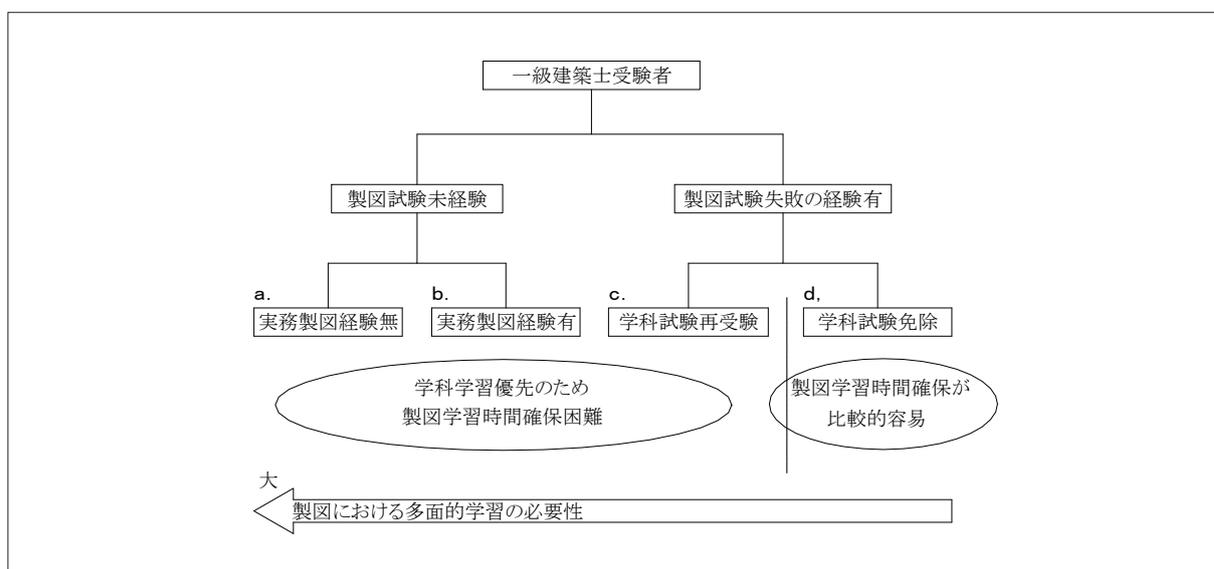


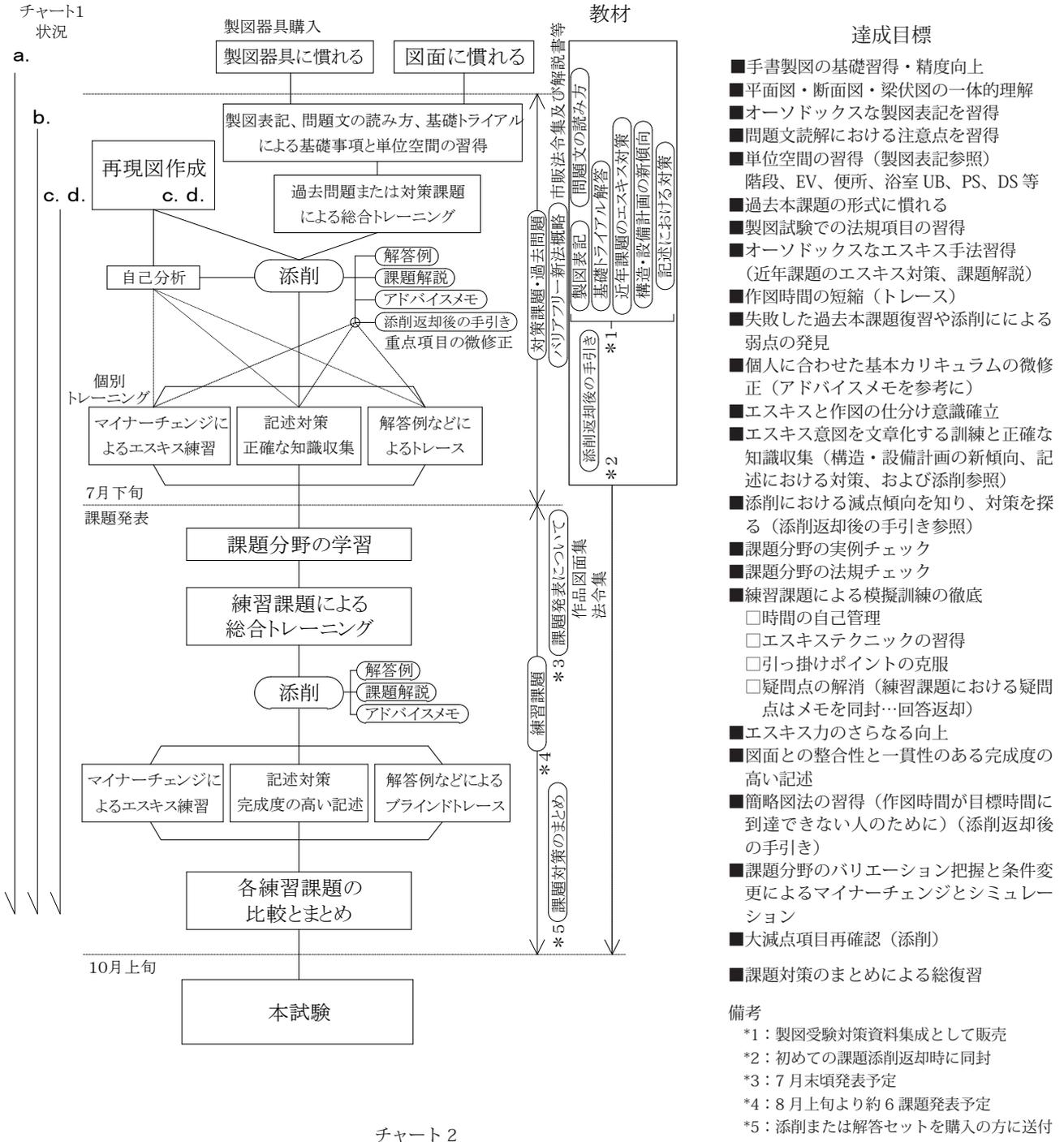
チャート1

受験者の置かれた状況は a. ~ d. に類別することができます。左にあるほど製図学習における多面的学習の必要性が増えますが、自由になる時間は、a. b. c. 共ほぼ同じなので、基本的には右にあるほど有利といえます。従って、自分の状況によりカリキュラムのスタートラインは異なります。

また、同じ状況にあっても、個人によってその傾向や弱点は異なります。過去問題の添削により、今の時点で基本的カリキュラムを微修正（8月時点で弱点が判明しても、目標達成が困難な項目もあるため）して、自分に適した効率的学習を少しずつ行うようおすすめします。

基本的カリキュラム

まず、下記に基本的カリキュラムを紹介しましょう。チャート1における状況 a. ~ d. によってスタートラインが異なります。



一般的自己分析方法 (c. d. の人)

c. d. の人は、復習と自己分析を行う上で、昨年までに得た資料を利用しながら、失敗した受験課題について、再現エスキスを作成し「どこで大減点を生じたか」「どの段階でエスキス判断を誤ったのか」「自分の弱点は何か」などの自己分析から始めます。これにより、カリキュラムの中でどの項目に重点を置いてトレーニングすべきか方針を立てることができます。(ただし、それがはっきり把握できない場合は、再現図と記述を作成し、添削を申し込み、適切なアドバイスを受けることをお勧めします。)

作図トレーニング

その後センター標準解答例等を理解した上で、自己分析を意識しつつ修正エスキスを作成。「製図表記」の確認も必要です。＝オーソドックスな表記と単位空間の習得)次にそのエスキスのみを頼りに作図(目的は作図スピードの把握)を行います。この段階での目標は3時間15分程度とします。まとまった時間が確保できないようであれば、「平面図2時間30分(2面なら1.5h+1h、3面なら10分程度多目でもよいでしょう。)断面図30分、面積表10分」のように分節し、トライしてください。時間内でどこまで出来たか、どこからが出来なかったか、合計何時間かかったかをチェックし、目標に近づくようトレーニングを繰り返してください。作図中に細かな部分でエスキスをやり直すと作図スピードが把握できません。作図トレーニングはエスキスと区別して行うようにしましょう。

添削を受けた場合であれば、解答例をもとに、大きな減点に結びついた部分をトレースするのもよいでしょう。

直近の受験課題の添削を受ける際は、再現図と再考案の別を明記し、合格発表後であればその評価(Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ類の別)を書き添えてください。

エスキストレーニング

エスキストレーニングとしては、完成されたエスキスを基に、接道・敷地のプロポーシオン・方位・設計条件・その他の施設等・大きな主要室の要求面積等を、どれか1つ変更するとエスキスがどのように変化するか、30分から1時間程かけてシミュレーションしてみましょう。エスキスは考える作業なので、単に過去課題を多くこなす解答例を暗記するだけではエスキス力向上につながりません。

この時期は作図の部分トレーニングとエスキストレーニングを交互に週1回(d. の人はさらに頻繁に)、繰り返すことにより、製図知識とモチベーションの維持ができ、作図とエスキスの基礎的能力の向上が図れます。手始めに、基礎トライアルで単位空間のエスキスと作図を行ってみるのも良いでしょう。

もちろん時間が許せば、未経験の過去問題、または対策課題を複数行ってください。対策課題は現在8題があります(順次追加を予定)。課題発表の7月末までの仕上げとして、また記述問題の応用編としてトライしてみてください。

記述トレーニング

約10問の記述は、エスキスのプロセスを言葉に置き換える意味でエスキスの一部と見ることができますが、製図との整合性を保ち、一連の作業となることから製図の一部と考えることも可能です。しかし、その配点は製図に匹敵するボリュームであることから、製図の従属的要素と見なすのは危険です。構造・設備、環境負荷低減に関する知識は製図受験対策資料集の「構造・設備計画の新傾向」により短期間に集中学習が可能ですが、それらを自案に組み込み、的確に説明する文章力は短期間に養うことはできません。

早い時期から「記述における対策」を通読し、対策課題による総合的トレーニングを行うことが有効となるでしょう。なお、その際の時間の使い方として、記述問題と自分の案を基にしたエスキス・キーワードの拾い出しに10分、記述清書に40～50分、引き抜き補足説明を含む図面密度の向上に10分を割り振ってもよいでしょう。平成17年以前の過去問題に挑戦する際は、5.5時間を基本としますが、記述をトレーニングする目的で、平成21年以降の記述問題を参考にあらかじめ作成し、1時間延長してみるのも有効です。

b. の人のカリキュラム

b. の人は、「基礎トライアル」を行い、製図受験対策資料集の「製図表記」を通読し、基本的な製図表記と単位空間を習得した上で、過去問題の添削をまず1つ行い、基礎能力の判定と、今後のトレーニングについてアドバイスを受けるようお勧めします。初めての過去課題では10時間近くかかる人も少なくありません。1課題に対し1日がかかりになってしまいますが、これからのトレーニングの方向性を知る上で必要なステップだと考えます。

あとは、c. d. の人と同じカリキュラムですが、自分の（添削で指摘された）弱点に応じ、微修正していけばよいでしょう。

例えば、**作図**のみで5時間以上かかる人は、トレースを多目にし、作図中に悩む項目を減らすため、さまざまな柱スパン割に対応した階段、便所等の単位空間のバリエーションを増やすトレーニングに重点を置くとよいでしょう。また添削の際、エスキスを解答（所要時間記入）に添えて送付してもらえば、作図に必要な充分なエスキス密度についてアドバイスが受けられ、作図時間短縮につながるでしょう。

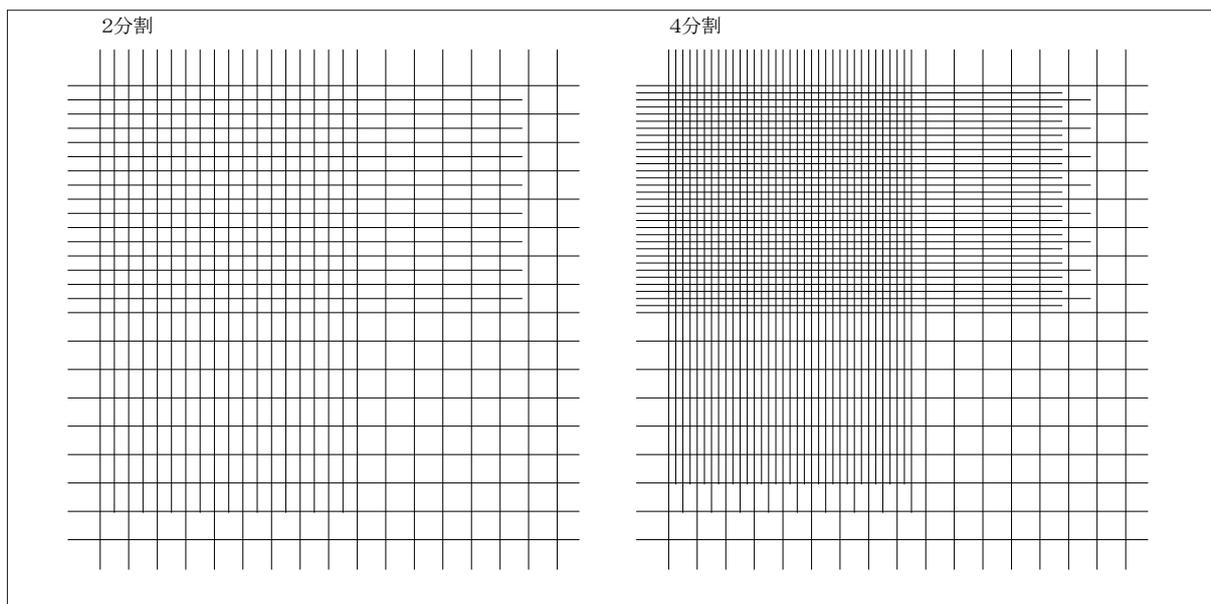
初めての課題**エスキス**で4時間以上かけても案がまとまらない人は、オーソドックスなエスキス手順を学習するため、「近年課題のエスキス対策」を通読してください。その上で、エスキスを図面と合わせ送付し、添削を受けた後、前項のエスキストレーニングを行い、いくつか過去問題を解く内にエスキス時間は徐々に短縮できるはずです。

a. の人のカリキュラム

a. の人は、（実務経験のない人のほか、実務経験があってもCAD製図のみで、手描き製図の経験がない人も含まれます。）まず、学科の可否にかかわらず製図用具（平行定規A2版、勾配定規、三角スケール、製図用シャープペンシル0.4mm、字消し板、テンプレート（丸+楕円+角+三角コンビネーションされたものが便利）、5mm方眼用紙A3判1冊等）を購入し、器具の使い方に慣れると同時に製図の基礎を覚えることを目標として、「製図表記」や建築雑誌またはコミュニティ施設、集合住宅に関する作品図面集などを週に1時間ほど1・2回、部分トレースするとよいでしょう。また、その前後に建築雑誌などの平面図と断面図・写真を見比べ、互いの関係性を意識する訓練や、各居室から階段への重複距離、防火区画などの法的チェックの訓練を合わせて行うと有効です。

a. の人に限らず、「壁などの厚みが均等に表現できない」「平行線が歪んでしまう」と感じている人、過去の添削などで「精度に欠ける」「メリハリがない」などの指摘を受けた経験のある人は、下記の図（5mm方眼紙の10cm角程度の範囲でよい）のように、グリッドの2分割、4分割線を縦横に引く訓練を毎日5分ほど繰り返し、線の始まりと止めの位置を揃える。間隔と線の太さの均一化、線一本おきに太線・細線の繰り返し記入等を目的に応じ試してみるとよいでしょう。分割の間隔がまちまちだったり、線が歪んでいると、グリッドの面が有機的なしみのように見えるはずで、それが均一な柄に見えるようになれば上記の症状も改善するはずです。

このような基礎訓練を1・2ヶ月行った上で、b. と同じく基礎トライアル、過去問題に移行すればよいでしょう。



精度向上のためのトレーニング

受験者の置かれた状況と合格率

a. b. c. の状況にある人にとって、この時期の製図基礎訓練は、かなり労力的な負担感があると思われます。逆に d. の人は圧倒的に有利です。

ところが、a. b. c. の製図受験者の合格率に比べ、d. (学科免除者) の合格率は例年 0～5% 高いに過ぎません。本来ならば顕著な差があってもよいはずですが、原因としては、

- ・ a. b. c. の受験者は、その年に学科試験の難関をパスした高揚感と、モチベーションを維持したまま製図学習に取り組むという精神的要因
- ・ d. の受験者は春から夏の時期、製図学習を怠りがちとなるため、昨年までの知識・技能が薄れること
- ・ 過去問題を含め多くの練習課題をこなすことにより、その平均値的解答に陥りやすく、解説などで学んだセオリーに依存するため、新傾向の要求に対応できにくいというマイナス要因

などが考えられます。a. b. c. d. いずれの立場にあるにせよ、この時期の過去問題と対策課題の添削は製図合格へ向けた底上げと、減点に結びつきやすい癖と傾向（これを弱点と考えてよいでしょう。）を矯正する手段であり、以上のようなトレーニングを重ねることにより、課題発表後の練習課題において、その効果が発揮されるでしょう。

一級とるぞ！.Net の活用方法

再現図添削の意味

12月の合格発表の際、「自分がなぜ不合格になったか分からない。」「不合格は覚悟していたが、Ⅱ類ではなくなぜⅢ類なのか理解できない。」となる人は多いと思われます。これは、

- ① 1次合格点（図面の足切り点）
- ② 2次総合計点（合格ライン）
- ③ 図面と記述の配点
- ④ 個々の減点基準

が公表されていないため発生する当然の疑問です。

平成21年製図試験改変の際、出題の仕方についての変更点については公表されましたが、①～④については情報が全くありませんでした。再現図添削の際には一級とるぞ！.Netにおいても混乱があり、Ⅱ類と想定した人が合格となり、Ⅰ類と予想した人が不合格となる例が少数ですが生じました。その後、センター標準解答例の検証とそれまでの再現図添削の見直しを行い、

- ①はそれまでより低目に設定
 - ③記述配点の図面配点に対する増加
 - ④の問題文にない事項により生じる減点の軽減
- 以上による②の変更

などが推定され、これにより上記の混乱は解消されることが判明しています。

この新たな基準による、より確度の高い添削を受けることにより、自案のポジションを知り、エスキス・作図の減点に結びつく癖や傾向、減点の大小、正確な表記ができていないため（知らぬ間に）生じた減点等を客観的な指摘により把握するのが自己分析を行う上で不可欠なプロセスとなります。

通常添削

課題は任意の過去問題、対策課題、練習課題（8月以降）から自由によります。添削内容は

- ・ 図面・記述の書き込み添削と
- ・ アドバイスメモ
- ・ （あれば）エスキスやマーキングした問題文へのアドバイス

からなり、

- ・ 図面解答例・記述解答例
- ・ 課題解説
- ・ 添削返却後の手引き（各課題共通資料で、初添削の際に同封）

が返却時に同封されます。

アドバイスメモは、個々の減点項目、1次採点、2次採点、合計点と類別判定、および各個人の弱点の指摘等を大きな要素と考えています。

アドバイスメモにより減点の傾向、原因等を知り、これを克服するための対処・トレーニングの方向性を示すのが「添削返却後の手引き」となります。

c. d. の人は冬場の早い時期に再現図、a. b. の人は過去問題の添削を受け、その後のトレーニング方針を確立しましょう。また、1課題のみの単発添削であっても、その添削およびアドバイスメモの内容は受験時まで保存されるため、次回、別課題の添削を行う場合でも、継続的アドバイスを受けることが可能です。

コーチングコース

冬から春にかけて、比較的学習時間の確保が容易な d. の人のために企画されたのが、コーチングコースです。「受験者の置かれた状況と合格率」に述べたように、この時期は製図技能とモチベーションの維持が難しく、的確なトレーニング策定とその実行がなければ、作図とエスキスの基礎的能力向上は困難となります。このコースは通常添削の他、

- ・コーチングメモによる問題点の提示、弱点克服のためのトレーニング提案、達成度の評価、次回課題の提案等
- ・課題、教材、および添削において生じた疑問・質問に答える掲示板サービスを加えた内容となっています。

掲示板サポートコース

課題発表後の練習課題を対象とする 8 月以降のコースです（コーチングコースと同内容で、7 月に募集予定）。

教材等

有料の教材は「製図受験対策資料集成」のみです。試験までの間繰り返し利用する資料ですから、早い時点での購入をおすすめします。

a. b. c. d. のポジションの違い、現時点での実力、スケジュール等に応じ、製図試験合格に向け最も効果的な組合せを考慮の上ご利用ください。